

ヒメヒゲナガカミキリ

「この虫なに」と問われました。カミキリムシであることは一目でわかりますが、種名は似たものが多いのでわかりません。逃げられないように足を指で挟んで撮影しました。画面の記録は2016年7月31日12時39分でした。小型ですが、触角が長く、まだら模様で美しいのです。西野さんの帽子にとまっていたとのこと。



帰宅して調べまして、ヒメヒゲナガカミキリと判定しました。ヒメとは小さいこと、ヒゲナガとは触角がながいことを表しますので、命名のとおりの体形であります。

体長9~18mm、分布は主な離島を含む日本全土、出現は5~8月、左手人差し指の爪の長さを測りますと12mmでしたので、この個体は18mmに迫る大物のようです。装いは地味ですが、形は典型的なカミキリ型で、とりわけ触角が長くて、そり加減が綺麗です。

食べ物は成虫は広葉樹の樹皮、幼虫は生木ではなく枯れ木の材をたべるとのこと。好みとしてはサワグルミ、クリ、ヌルデ、キブシなどのようです。成虫は広葉樹の伐木に寄るとのことなので、澄川森林の積薪はカミキリの好む場所なのです。

この日は親子森林教室「森しり隊」2回目の澄川開催でした。朝9時半からホテル鑑賞までの11時間余りの長丁場でしたが、元気な子供たちはちよいと自由な時間があると焚火に集まり、火遊びに余念がありませんので、目を離すことができません。人間は他の動物と決定的に違う発達をした要因の一つは火をコントロールする技術を身につけたことと思っていますので、子供の火遊び



の経験は必要であると思しますので、やりたいようにやらせることにして、見守ることだけにいたしました。

「さっきオオヒラタシデムシを見た」という子供もいるので、参加者の意識の高さがよくわかります。虫の名前もいい加減に答えるわけにはゆかないのでありました。